

SPCフローリング施工要領書

施工前に必ずお読みください。不適切な取付けはクレームの対象外となります。


ie-mon 株式会社 ie-mon
〒783-0004 高知県南国市大そね甲736-1
TEL: 088-855-9760 FAX: 088-855-9761
https://www.ie-mon-asia.net/
更新日: 2025年11月25日

重要事項

- 施工環境は現場ごとに異なるため、現場の条件や用途が地域の規制や業界の基準を満たしているかを確認するために、必ず有資格の施工業者にご相談いただくことを推奨します。
- 暖炉などの熱源から必要な距離を保つことも含め、建築基準法やすべての法令の遵守については所有者の責任となります。
- 設置後は室温を約 15℃～27℃の範囲に保つようしてください。過度に高い、または低い温度は、本製品の膨張や収縮を引き起こし、床に視覚的な欠陥が生じる可能性があります。この際生じた欠陥は保証の対象外となりますのでご注意ください。
- 問題なく仕上げるためにも、必ず 2～3 箱分を混ぜながら施工してください。

施工前の準備

- 施工前に部屋の床面積を計算し、カットロスを考えて床材を 10% 多めに用意してください。
- 通常、本製品には施工環境に適応させるための特別な慣らしは必要ではありません。ただし、施工前 12 時間以内に床材の箱が極端な温度(約 10℃未満または約 38℃以上)に 2 時間以上さらされた場合は慣らしが必要になります。その場合は、未開封のまま室温で少なくとも 12 時間保管してから施工を開始してください。施工前および施工中は、室温を約 15℃～27℃に維持する必要があります。
- 床面積が約 600㎡を超える場合、またはいずれかの方向で長さが約 24m を超える場合は、伸縮目地材を使用してください。
- キャビネットや固定された家具を床材の上に設置しないでください。
- 施工前に下地を点検してください。下地は清潔で、約 3m あたり約 4.8mm 以内の水平度を満たす必要があります。
- 本製品は防水性がありますが、防湿の機能はありません。下地は乾燥している必要があり、含水率は最大 2.5% (CM 法による測定) までです。また、本製品はサウナや屋外など、浸水のリスクがある場所には使用できません。
- 既存の木製フローリングの上に本製品を施工する場合は、緩んでいる板やきしみのする部分を事前に補修するようお願いいたします。
- コンクリートの下地に施工する場合、下地は少なくとも 60 日間の完全な乾燥期間が必要です。また、コンクリートと床材の間には、最低 約 0.15mm 厚のポリフィルム防湿シートを必ず敷いてください。
- 既存のタイル床の上に施工する場合、約 3mm を超える目地は、認定されたレベリング材で埋めて平滑にしてください。
- フローティングフロア (接着しない浮かせ張り) の場合は、壁や配管、柱、階段などの固定物との間に、常に約 6mm の隙間を確保する必要があります。これらの隙間は、床の施工後に中木などの仕上げ材で隠してください。
- 施工面積を測定してください。最終列の板幅が約 5cm 未満になる場合は、最初に施工する列の幅を調整してください。狭い廊下では、板材の長手方向を廊下の長さに沿って平行に敷くことを推奨します。
- 施工前に、必ずすべての板材を 1 枚ずつ検品してください。施工後の表面の欠陥についてのクレームは受け付けられません。

直射日光が当たる場所での施工について

床材が長時間にわたって直射日光にさらされる場所(サンルームなど)では、該当箇所の床材を接着剤で固定することを推奨します。基本的には施工手順に従ってクリック式のサネで接合していきますが、必要に応じて床用接着剤(酢酸ビニル樹脂エマルジョン系を除く)を使用してください。使用する際は接着剤メーカーの指示に必ず従ってください。

また、接着剤を用いて施工を行う場合、ポリフィルム防湿シートは使用しないでください。床材は下地に直接接着する必要があります。本製品には裏面にあらかじめ下敷き材(アンダーレイシート)が取り付けられています。カーベットのやや、追加の下敷き材の上には設置しないでください。(ただし、コンクリートの上にポリフィルム防湿シートを敷く場合を除く)

床暖房について

本製品と床暖房の間には、最低 12mm の間隔が必要です。必ず 12mm 以上の合板を捨て貼りし、床暖房の上に本製品を直接張り込まないようにしてください。直接張り込んで施工した場合に生じた不良に関しまして、弊社は一切の責任を負いません。最大使用温度は 26℃です。過熱防止のため、床下温度センサーの使用を推奨します。

- 新設の床暖房の上に施工する際は事前にシステムを最大出力で稼働させ、床暖房のセメント系仕上り材に残っている水分を完全に除去してください。最大許容水分含有量は 2.5% (CM 法による測定) とします。床暖房が設置された下地に施工する場合は、施工開始の 24 時間前から施工中、そして施工後 24 時間は暖房を停止してください。
- 施工中は室温を 15℃～25℃の範囲に保つようしてください。
- 施工完了後は床暖房を稼働させ、通常の運転温度に戻すまで 5 度ずつ段階的に温度を上げてください。
- 追加の操作手順については、床暖房メーカーの推奨事項を参照してください。

○ 使用可



× 使用不可



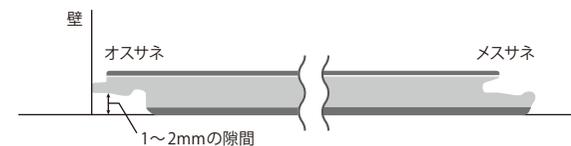
施工方法

- 手順をよく読み、最初に仮並べをして仕上りのバランスを確認してから施工を始めてください。

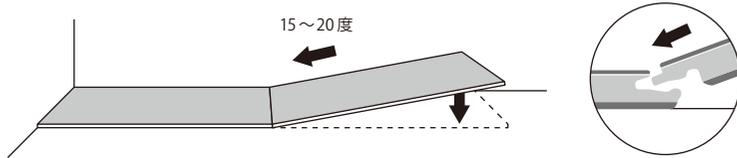
施工に必要な工具: ゴムハンマー、定規、鉛筆、メジャー、カッター

【1 列目】

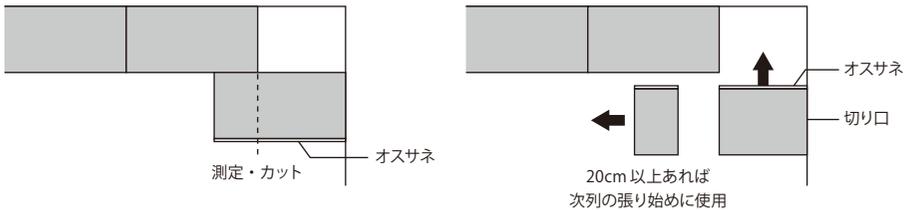
- 1 枚目の床材は部屋の角から始め、オスサネ(上部が突き出た側)が壁に向くように配置します。伸縮率が低い製品のため、壁と床材の隙間は空けずに施工可能です。
- オスサネの下に 1～2mm ほどの隙間ができるため、破損防止として隙間を埋めていただくか、サネ部分をカットして施工することを推奨しております。



- 2枚目の床材を取り付けるには、オスサネを最初の板のメスサネに対して約15~20度の角度で差し込みます。そのまま床材を下ろし、カチツとはまるまで押し込みます。固くはめ込みづらいときは、当て布をしてゴムハンマーで軽くたたいてください。
※強く叩きすぎるとサネの破損に繋がりますのでご注意ください。
※サネを入れる時は隙間ができないようにしっかりととはめ込んでください。張り進めたあとで隙間を改善することは難しいため、隙間がある状態で張り進めないようご注意ください。
- 端を慎重に揃え、全体が床にしっかりと平らに接していることを確認してください。

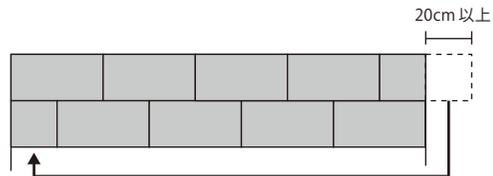


- 3枚目以降も同様の手順で取り付けていき、壁に接する最後の板は下記のように測定・カットし取り付けます。極端に短くなってしまう場合は、1枚目をカットし長さを調整してください。
 - ① 模様面を上向きのまま、サネの向きを180度回転させて列の横に並べて置きます。
 - ② 必要な長さを測定し印を付けます。
 - ③ 定規とカッターを使って複数回切れ込みを入れ、切れ込みに沿って山折りに折り曲げます。裏面のシート部分を切り離します。
 - ④ カットした切り口を壁側に向けてはめ込みます。はまりにくい場合はヤスリで削って調整してください。



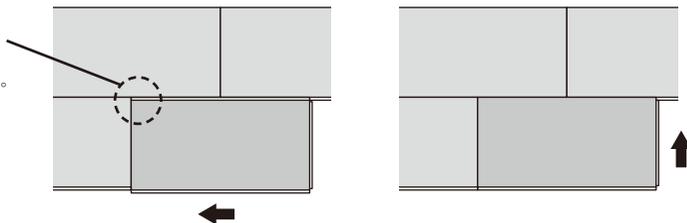
【2列目以降】

- 前列とはパターンをずらして開始します。
- 張りはじめは20cm以上の長さを確保してください。前列でカットした端材が20cm以上ある場合は列の張りはじめにご利用いただけます。



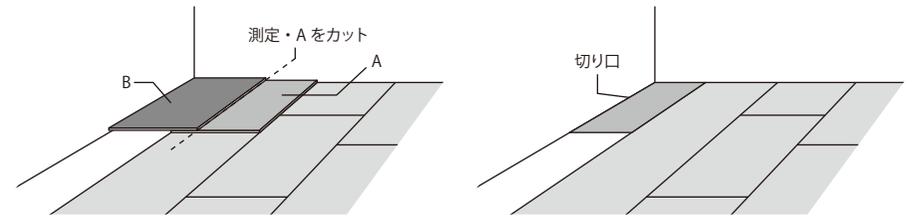
- 2枚目以降は、先に短辺のサネをはめ込み、軽く揺らしながら長辺のサネを入れるようにすると施工しやすいです。サネに負荷がかかりすぎないよう、力の入れすぎにはご注意ください。

※短辺のサネをはめ込む際、長辺のサネが前列のサネと重なる位置で角を合わせておく。



【最終列】

- 最後の列を取り付けるには、下記のように幅を測定・カットし取り付けます。
 - ① 張りたい板(A)を、サネの方向を合わせて前列の上に重ねて置きます。
 - ② その上にもう1枚、裏返した板(B)を壁に沿わせて置き、定規のように使って切断位置を測定し印を付けます。
 - ③ 定規とカッターを使って複数回切れ込みを入れ、切れ込みに沿って山折りに折り曲げます。長辺を折る時は作業台の端に切れ込みを合わせ、上から押して慎重に折るようしてください。最後に裏面のシート部分を切り離します。
 - ④ カットした切り口を壁側に向けてはめ込みます。



【ドア枠、通気口周り】

- 床材を適切な長さにカットして、実際に取り付ける位置の近くに置き、切り欠くべき部分を定規で測って印を付けてカットします。
- ドア枠の下に床材を通す必要がある場合は、ドア枠の下部をカットして調整します。板材を裏返してドア枠の前に置き、板の厚みに合わせてノコギリでドア枠の下部をカットしてください。これにより、床材をドア枠の下に納めることができます。

【壁面へ施工する場合】

- 壁面へ施工する場合は接着剤を使用して施工してください。

メンテナンスについて

- 日頃のお掃除は、柔らかめのほうきか掃除機をご使用ください。
- 重い物や家具を床の上で引きずったり、滑らせたりしないでください。
- こぼれた液体や過剰な水分はすぐに拭き取ってください。
- 必要に応じて湿ったモップで拭き掃除を行ってください。クリーナーを使う際は、ワックスやオイルを含まないビニール床用クリーナーを使用してください。※目立たない箇所没有问题がないか試してからご使用ください。
- 本製品には家庭用スチームモップの使用が可能です。最も低い出力で、適切なソフトパッドを使用し、同じ場所に長時間当て続けられないようにしてください。正しい使用方法については、スチームモップの取扱説明書を参照してください。
- 直射日光が常に当たる状態を避けるため、日差しが強い時間帯にはブラインドやカーテンを閉めてください。
- 家具の下にはフェルトパッドなどの床保護具を使用してください。キャスター付きの椅子の下には保護マットを敷いてください。
- 研磨剤入りクリーナー、漂白剤、ワックスは使用しないでください。